

# 菊地 絢女展 「水と人の軌跡」

紙をカッターで切り抜き、折り曲げ、それを無数に重ねて、自然界の循環や感情の流れ、生命エネルギー等を視覚化する造形作品を制作しています。

水が豊かな日本で育った私にとって、富士山は地球の循環を思い起こさせてくれる象徴でもあります。日本の文化は水とともにあり、紙もまた水の産物であると考え、紙という素材は、様々な表情を見せてくれます。

年間約20億～30億トンもの雨が富士山麓に注がれながら、そのほとんどが川を作ることなく、富士山の溶岩が吸収し、地下でゆっくり時間をかけながら、湧き水となって流れるという、富士ならではの独特な水の形態が巨大な濾過システムのようにでもあり、また、私にとっては一滴の雫の落ちる音でさえ、そこに蛙や水草が暮らしていることを思い起こさせてくれる大切な記憶との繋がりでもあります。

自然界の特質をも変えられる技術が発展した現在に生きる私は、紙で言うならば、皺がよる、燃えやすい等の自然物の特性を賜物と捉えることを忘れてしまいがちであり、文化の向上と同時に起こる、自然や一個人のライフスタイルに至るまでの存在そのものの特質を探究することの衰退を時に考えさせられてきました。

雨として降り注ぎ、何年もの時を超えた水の旅に人が恩恵を受ける不思議な自然との関わりを、この地を文化の母体と捉えた時、私は幼い時に立ち返り、紙を千切るという単純な行為や、制作途中で出た意図としない奇怪な形の紙屑も素材として取り入れ、過去作品から発展させたいと思います。

立ち返ることは、戻る行為なのか、はたまた発展なのか、手を動かしながら浮かび上がる流れの形に耳を傾け表現することで、問いかけとなる空間を制作したいです。 菊地 絢女



「躍動」  
1800×700×700mm  
2021年  
photo:石橋純  
model:インジカユウ

右上「金の涙」  
860×420×630mm  
2019年  
photo:赤尾昌則

右下「心の死と再生」  
2200×700×700mm  
2018年  
photo:赤尾昌則

菊地 絢女 Ayame Kikuchi

神奈川県生まれ・在住 東京工芸大学芸術学部卒業  
グラフィックデザイナーの傍らアート活動を経て、2008年美術家として独立。  
紙、布、廃材などを使用した立体造形やインスタレーションを制作する。  
自然界の循環、生命エネルギー、人の感情の流れに焦点を当て、それらを視覚化する。  
布と絵画を構成した造形や、彫刻としての切り絵表現、廃材の造形等、幅広い作品を展開。

主な展覧会・個展

- 2024『菊地絢女展 空中散歩』個展 (アートO美空間 Saga / 神戸)
- 2024『いのちの森』個展 (mint kobe / 神戸)
- 2022『二人展 Between me and me』(Real style / 愛知)
- 2021『Unexpected encounter』(Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi / 東京)
- 2020『Giant Mango Selection vol.6』(Wrong Gallery / 台北)
- 2020『Mostra di Artisti Giapponesi Contemporanei』(monogramma / ローマ)
- 2020『AAF Milan 2020』(Super studio piu / ミラノ)
- 2020『AAF Melbourne 2019』(Melbourne Town Hall / メルボルン)
- 2018『SICF 19』(SPIRAL / 東京)
- 2017『Pattern Pile』空間演出として (SPIRAL Showcase / 東京)
- 2017『アスリート展』(21\_21 DESIGN SIGHT / 東京)
- 2016『ART in PARK HOTEL TOKYO 2016』(パークホテル東京)
- 2015『Fower energy』(TOCCA 銀座・青山 / 東京)
- 2015『Material』(JILL D'ART GALLERY / 愛知)
- 2015『菊地絢女展』個展 (Nabe Cafe / 東京)
- 2013『ユリカナ展』(渋谷ヒカリエ 8/CUBE / 東京)
- 2013『その先の風景展～風景考2012に導かれて』(SATOSHI KOYAMA GALLERY / 東京)
- 2012『911 展』(Me&Art GALLERY / シドニー)
- 2008『Project 7 Boxes』(三鷹市芸術文化センター / 東京)



2024年10月1日(火)～12月8日(日) 10:00～18:00 観覧無料 (休館日 10月7日(月)、11月11日(月)・12日(火) ロゼシアター休館日に休館いたします。)

特別講座 | アーティストトーク 10月6日(日) 13:30～14:30 参加無料・申込不要 ■最新情報はHP・facebookをご参照ください。 主催 富士市 主管 一般社団法人富士芸術村

予告 | 第17回 紙のアートフェスティバル 2025

作品募集 春 募集内容発表 応募受付開始 …… 夏 大賞決定 …… 秋 展覧会開催  
紙を素材にした作品(立体造形、インスタレーション等)を募集。詳細はウェブサイト内で発表します。

ふじ・紙のアートミュージアムは、紙を素材とした芸術作品を展示します。そして、「つなげる・つながる」をテーマに芸術文化活動をしていきます。当ミュージアムが拠点となり、富士市全体がミュージアムになることを願っています。2016年11月1日開館

- 交通 車の場合は、東名富士インターチェンジより約2.3km、国道1号より約2.2km、新富士駅より約2.2km、富士駅より約2.6km  
バスの場合は、「JR 富士駅(北口バス停)から15分「ロゼシアター入口」で下車し徒歩2分新幹線 JR 新富士駅(北口バス停)から15分「ロゼシアター前」下車  
\*発車駅によって到着するバス停が異なりますのでお帰りの際はご注意ください。
- 駐車場 富士市文化会館ロゼシアターの駐車場をご利用ください。  
\*ロゼシアター開催の公演により混雑する場合があります。

〒416-0953 静岡県富士市蓼原町1750番地 富士市文化会館ロゼシアター1階 東側奥  
TEL 0545-32-6581 FAX 0545-32-6582 <https://www.fuji-paperart.jp>

 **ふじ・紙のアートミュージアム**  
Fuji Paper Art Museum



次回展覧会 | 岩崎花菜子展 予定 2025年1月5日(日)～3月16日(日) 10:00～18:00 観覧無料  
休館日 1月20日(月)、2月17日(月)～20日(木)、3月10日(月)・11日(火) \*ロゼシアター休館日に休館  
■日程等変更する場合があります。最新情報はウェブサイトをご確認ください。